

細胞機能異常と腫瘍

(Pathology of functional abnormalities and tumors)

【責任者/担当者】

〔病理学 病理診断部門〕 廣田 誠一 主任教授

【担当者】

〔病理学 病理診断部門〕 松田 育雄 准教授、山田 直子 講師、山根木 康嗣 講師、
西浦 弘志 助教、杉原 綾子 非常勤講師

【目的】

- ・細胞障害・変性と細胞死: 細胞障害・変性および細胞死の原因・病態と細胞・組織の形態的変化を理解する。
- ・代謝障害: 糖質、タンパク質、脂質などの代謝異常によって生じる多様な疾患について理解する。
- ・腫瘍: 細胞の増殖・分化の機構とそれらの異常を学び、腫瘍の定義、発生機構と病態を理解する。また、いくつかの腫瘍については、個別の病態・疫学・病理像・診断法・治療法についての概要を理解する。

【科目キーワード】

「変性(Degeneration)」 「代謝障害(Metabolic disorder)」 「腫瘍(Neoplasm)」

【到達目標(アウトカム)】

- ☐ 細胞障害・変性と細胞死の多様性、原因、その意義を説明できる。
- ☐ 細胞障害・変性と細胞死の細胞と組織の形態的変化の特徴を説明できる。
- ☐ ネクロシスとアポトーシスの違いを説明できる。
- ☐ 糖質代謝異常の病態を説明できる。
- ☐ タンパク質・アミノ酸代謝異常の病態を説明できる。
- ☐ 脂質代謝異常の病態を説明できる。
- ☐ 核酸・ヌクレオチド代謝異常の病態を説明できる。
- ☐ 無機質代謝異常の病態を説明できる。
- ☐ 組織の再生と修復や肥大、増生、化生、異形成と退形成を説明できる。
- ☐ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。
- ☐ 上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いを説明できる。
- ☐ 腫瘍細胞の異型性と多型性を説明できる。
- ☐ 局所における腫瘍の増殖、浸潤と転移を説明できる。
- ☐ 腫瘍発生に関わる遺伝的要因と外的因子を概説できる。

- 癌遺伝子と癌抑制遺伝子を概説できる。
- 主な腫瘍の疫学・病態・組織像・細胞像などについての概要を説明できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

【概要ならびに履修方法】

細胞障害・変性と細胞死・ネクロシス・アポトーシス・糖質代謝異常・タンパク質/アミノ酸代謝異常・脂質代謝異常・核酸/ヌクレオチド代謝異常・無機質代謝異常・組織の再生/修復・肥大と増生の違い・化生・異形成・退形成・良性腫瘍と悪性腫瘍の違い・上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違い・腫瘍細胞の異型性と多型性・腫瘍の増殖/局所浸潤と転移・腫瘍発生に関わる遺伝的要因と外的因子・癌遺伝子と癌抑制遺伝子・代表的な臓器の腫瘍の病態等に関して講義を行い、重要な病態や病変については実習を行って理解を深める。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

前日までに該当する部分の講義冊子に 1 時間程度目を通すこと。

【成績の評価方法・基準】

- ・定期試験(筆記試験を含む)80%、実習評価 20%
(兵庫医科大学学則、教務に関する規程の通り、出席が授業実施時間数の 2/3 に満たない場合は定期試験・再試験の受験資格を失う)。
- ・実習は皆勤が条件

【学生への助言】

病変の認識は正常組織の理解の上に成り立つものであり、組織学の知識が重要であることを承知し、あらかじめ正常組織についての理解を深めておくこと。その上で、各病変の特徴の要点を把握すること。

【フィードバック方針】

試験についての解説講義を行う(低正答率問題を中心)

【オフィスアワー】

特になし

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】

「ロビンス基礎病理学(原書 10 版)」豊國伸哉、高橋雅英 監訳(丸善出版)2018 年

「組織病理アトラス(第 6 版)」深山正久、他 編(文光堂)2015 年

【連絡先】

教育研究棟 9 階 病理学 病理診断部門 セミナー室